

洋風喫茶ブローウインラバー

鈴木梢

△登場人物V (男3人・女2人)

父 ……洋食屋「さなえ」店主

パスタ (ぼすた) ……長男オブ長男

麵馬 (めんま) ……次男オブ次男

香柚 (かゆ) ……末っ子長女

母 (さなえ) ……声

一場 (シュークリーム選手権)

舞台には机が一つ。椅子が一つ。

机には数個のシュークリームが置かれている。

椅子には目隠しをした父が座っている。

舞台にはろうそくが厳かな雰囲気を作り出し、まるで今からギリシャ悲劇でも始まりそうな面持ちだ。

パスタ、父にシュークリームを手渡す。

父、頬張り、噛み締め、味わい

父 ……コージー…コーナー…

パスタ 正解。

パスタ、次のシュークリームを手渡す。

父、頬張り、噛み締め、味わい、

父 ……セブン…イレブン…

パスタ 正解。

パスタ、次のシュークリームを手渡す。

父、頬張り、噛み締め、味わい、

父 ……ロー…ソン…

パスタ 正解。

パスタ、最後にエクレアを手渡す。

父、頬張り、噛み締め、味わい、

父 ……エク…レア…

パス太 正解。今日はここまでにしとこう。

父、目隠しを外す。

とたんにこやかな雰囲気。

パス太 健在だね。

父 まあな。父さんは料理人だからな。

階段を上ってくる麺馬と香柚。

麺馬 鯨という字は、魚に京と書く。

香柚 そうだね。

麺馬 何故「京」と書くか知っているかね？

香柚 知らないガネ。

麺馬 そうか。ではお兄さんが教えてあげよう。あれはね、数字の京なんだ。

億兆京の、京。

香柚 へー！

麺馬 すげーでかいからそういう意味でつけたらしい。

香柚 兄ちゃんパネえ。

麺馬 そうだ、兄ちゃんはパナイ。わかったらもっと敬って。

香柚 どうやってよ。

麺馬 なんかこう、「尊敬のまなざし」を。

香柚 どっから出んの、それ。どっから分泌されるの。

麺馬 分泌って言うな。心からだよ。

香柚 へー。知らんわ。

麺馬、立ち止まり

麺馬 時にさ、一番最初に鯨見た人ってどんな気持ちになったんだろうな。目の前にあんなでかいもん出てきたら、俺だったら死ぬ。

香柚 憤死？

麺馬 憤死違う。驚き死に。

香柚 まあ、そうだよね、「バケモン！」って思うよね。

麵馬 だよなあ……

間。

香柚 進めないんだけど。

麵馬 俺は、いつか鯨のような大きな男になりたい。

香柚 バケモノ？

麵馬 バケモノちゃう。スケールのでかさの話。

香柚 まあ、まず進もうよ。

麵馬 そうだな、進もう。一步一步。

四人が出揃う。

香柚 たーいまー。

パス太 うーす。

父 こら、お前ら。ちゃんと言葉使いなさい。

麵馬、香柚、おかえり。

間。(無視)

父 ショック！ お父さんショック！！

香柚 駅前のおべんと屋さん、閉まってたよ。

パス太 マジで！？ うわー……もつと堪能しときゃよかった。

香柚 てことでパン。

香柚、パンの入った袋を父、パス太に渡す。パス太、ごそごそして

パス太 あ、アンパンマンパンがある。俺これ。

四人、パンを頬張る。

パス太 アンパンマンの顔イっちゃってる……

父、無言で二個目のパンを探す。と、袋の中にマラカスを見つける。

父、無言でシャカシャカする。

麵馬 ああ、それ拾ったんだよ。

父、無言でシヤカシヤカを続ける。徐々に楽しくなってくる。
パス太がカホーンを鳴らす。家族全員でセツション。
いい雰囲気の中、

父 あ、俺店たたむ。

音がやむ。(出来たら暗転。出来なければ転換)

二場(セピア色の過去)

重苦しい雰囲気。

麵馬 ねえ、今日も空はこんなにも青く、太陽は輝いている。小鳥はさえずり、子供たちの笑い声が聞こえる。世界は愛に包まれている。そんな世界が、他愛ない日常が、ずっとずっとずっと続くと、僕は思っていたんだ。

父 俺、店たたむわ。

麵馬 僕を取り巻くこの状況を、仮に「環境」と呼ぼう。生物には適応能力が備わっていて、その能力は種によって変わる。だけれどその能力は僕の、僕自身も宿しているはずなんだ。

だから、そうだ、僕もいつか、この環境に慣れて、その中で生きてゆくことをものとしなくなるんだろう。でもそれでいいのか。それは逃げじゃないのか。忘れることはいいことなのか。そんな考えがぐるぐるすると僕の脳内を駆け巡って、僕は何にもする気がなくなった。

思い返すのはいつだってあの日のこと。母さんが元気だったとき。僕はまだ小さくて、兄貴にくっついて歩いてた。

あの頃は、世の中のすべてが僕より大きくて、スリルとファンタジーに満ちていた。空を一日眺めていても飽きなかった。宇宙飛行士にさえ、クジラにさえ、何にだってなれると信じていた。

…クジラか。実は僕は今でも、クジラになれると、なりたいと思っている。スケールの話。

でも、僕は、もうどうでもよくなってしまった。当たり前のようにそこにあったこの店が、僕の家が、もうなくなってしまうんだから。もう、今までのようにはいられないよ。あの日、僕は死んだ。

父

この店の名前は、家内にちなんだものなんですよ。あのときの私はまだやんちゃでね、「俺が一番大事なものの名前を付ける!」、なんちゃってね。青臭い昔話です。でも、そんなあの時の自分が、何故か好きでね。

あの頃に帰りたいとか、あるでしょ。私もね、そういうの全然ないと思ってたけど、やっぱあるんだなあ。会社を辞めて、洋食屋始めたあの頃。飯ばっかり作ってたけど自分は食えねーや、って、よく家内と笑ってたもんです。

毎日帳簿とにらめっこする毎日でした。家内と二人、布団にくるまってね。でもそのうち、ぼつぼつと常連さんが増え始めて、長男が生まれてね。パス太っていうんですよ。いい名前でしょ。唯一無二にしてやろうと思ってね。本人も最近ようやく気に入ってくれたみたいです。

次男が生まれて、娘も生まれてね。今思えば、幸せすぎたのかなあ。

家内がいなくなってしまうって、暫くはもう必死ですよ。子供は3人。寝る間も惜しんで働きました。授業参観にも行けなくて、そのくせ店手伝わせて、可哀そうな思いをさせました。

うちの長男がね、もうすぐ就職するんですよ。ナントカっていう、インターネット関連の職場でね、「土日は休みだから店手伝ってやるよ」って、嬉しいじゃないですか。

でもね、最近よく夢を見るんです。「もう大丈夫だよ」、って、家内の声でね。何が大丈夫なんだい、って私は尋ねる。そうすると、「好きなように生きなさい」って言われるんです。

だけど、私は自分の好きなようにしか生きていない。どういう事なんだろう、って、ずっと考えてて、ある時ね、パス太と話したんですよ、酒飲みながら。息子と酒飲みながら語るなんて、あの時は考えもしなかったけど、あれはなかなかいいもんですね。妙にくすぐったくって、明るくって。

あの時、あいつ、なんて言ったっけなあ。でも、そんな時、思ったんです。「ああ、もう大丈夫だ」って。だから、店をたたんで、小さな喫茶を始めようと思うんですよ。店の名前は何にしようかなあ。家族会議だなこりゃ。

父、退場。

麵馬　　こんなはずじゃなかった。

麵馬、ぼたりと倒れる。

パス太登場。

三場（確執）

パス太 起きろダメ学生。

麵馬 はっ。

パス太 学校行け学校。

麵馬 今日は創立記念日だよ。

パス太 嘘つけバカヤロ。

間。

麵馬 夢？

パス太 何が？ あーそういうえば父さんが新しい店の名前一緒に考えようって言ってたぞ。家族会議だって。

麵馬、悶絶。

麵馬 俺、いい。

パス太 何が？

麵馬 もうどうでもいい。父さんが勝手にすればいい。

パス太 ……

麵馬 だってそうだろ？ なんでやめんの？ わけわかんないよ。この壁にも、天井にも、思い出がいっぱい詰まってるじゃん。身長測った時の傷とか、頭ぶつけた場所とか、あるのに。ここは俺らの家じゃんか。

パス太 別に家取り壊すわけじゃないだろ。

麵馬 そういうこと言ってんじゃないんだよ。

麵馬退場。階段を駆け下りる。

間。

麵馬帰ってくる。

麵馬 ここは俺の家なんだよ！ ここなくなったら他に行くところないんだよ！ なんだよ、もう！

香柚、階段を上ってくる。

香柚 何々、喧嘩？ 混ぜて。

香柚、発砲スチロールの剣を人数分持っている。二人に手渡し、自分も構える。

香柚 さあ、さあさあ！ いざ尋常に！

香柚、二人に叩かれる。

香柚 いたッ！ いたッ！

麵馬 お前は、もう、なんか、ダメだほんと！

香柚 うっせーダメ学生！

麵馬 ぐッ……

香柚 隙あり！

麵馬、香柚に叩かれる。

麵馬 いたっ！

香柚 へへへ。元気になった？

麵馬 ……なんか、もう、なんだよ！ ほっといてくれよ！ 香柚だっていやだろ？ 家なくなるの。

香柚 別に。人がいなくなるより、ずっといい。

麵馬 ……

父登場。

父 おーい、家族会議しようよ。…何してんのお前ら。

香柚 喧嘩！

父 喧嘩！？ こら！ 喧嘩は、あの、駄目だぞ。痛いからな。な。まったく仕方ないなお前ら。はい、じゃあ、気を付けして。

で、礼。「すみませんでした」。これでおしまい。

というかな、お前ら料理人の子供なら手は守って、で、暴力じゃなく味で勝負しろ。その方がかっこいいぞ。

さて、じゃあ会議しよう。

麵馬 俺いい。

麵馬、退場。階段を駆け下りる。

父 え……？ え……！！？

香柚 麺兄繊細だから。大丈夫だよ。すぐ帰ってくるから。

父 お前はほんと、母さんに似てきたな……

香柚 ほんと？ 惚れないでね。

転換。

四場（母さんの声）

麺馬登場。

麺馬 勢いで買ってしまった……

麺馬、煙草を取り出す。逡巡。

声 麺馬。

麺馬 誰？

声 麺馬。

麺馬 母さん！？ まさか！

声 煙草は、駄目よ。あなたは料理人の息子。

麺馬 料理人の息子……

……そうだ、俺は、……いやいや俺は、違うんだ。俺はグレてやろうと決めたんだ。俺は、アレだ。不良なんだ。イメージしろ、俺は不良だ……

間。

麺馬 俺は、俺は……俺は料理人の息子だ！ 畜生！

麺馬、煙草を握りつぶす。

麺馬 舌を粗末にはできねえよ……

間。

麺馬 わかっているんだよ……俺だって、もう、父さんには休んでもらいたいんだよ……。

お疲れ様、って、今までありがとう、って、言いたいんだよ……もう、自分の為に生きてほしいんだよ……なんで言えねえんだ俺！ クソ！ クソ！

声
麵馬。

麵馬
！

声
言えない言葉も伝えたい気持ちも全部を込めて人は料理を作るのよ。

麵馬
……

声
あなたの手には何がある？ あなたの手は何をできる？

母さんはいつでもあなたを見守っていますよ。(フェードアウト)

麵馬
……ありがとう。

転換。

五場(ファイナーレ)

父、パス太、香柚登場。

香柚
あ。

麵馬
……ただいま。

香柚
おかえり。

ほら、

父
おかえり……。

麵馬
ただいま。

間。

麵馬
会議、終わっちゃった……？

パス太
いや？

麵馬
そっか。

間。

麵馬
あの、さ、

何食べたい？ 今。

短い間。

麴馬 作るよ。俺。

間。

父 そうだな、じゃあ、甘いものが食べたい。

麴馬 わかった。

麴馬、厨房へ。

父 手、洗えよ。

麴馬 うん。

麴馬、厨房に入る。材料チェック。

麴馬 ……あれ、砂糖がない。

父 え嘘。

麴馬 ない。

パス太 砂糖ない喫茶って駄目だろー。(笑う)

俺買ってくるよ。

香柚 あ、私も行く！

二人で退場しかける。

麴馬 ま、待って、二人きりにしないで！

麴馬、追っかける。

父 なんでだよ、いいじゃないか！

父も追っかける。

全員が退場。

間。

香柚が「おしまい」と書かれたプラカードを持って再登場。礼。

幕